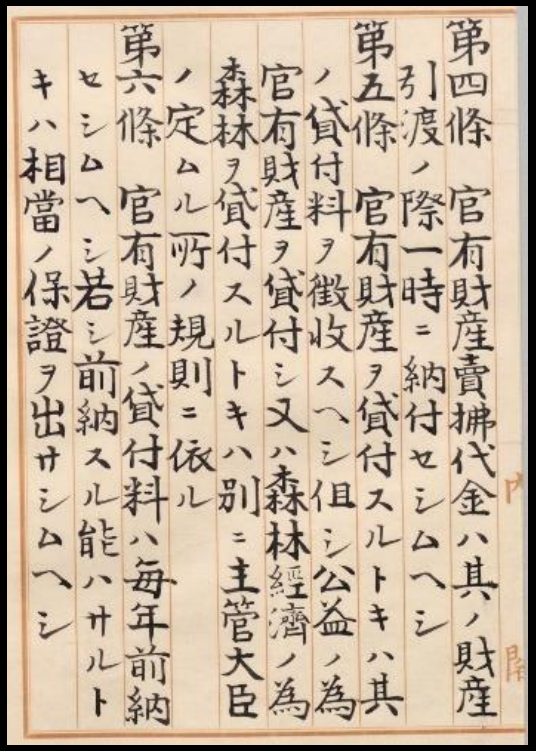
歴史講座　公文書が語る熊本の歴史　第1回

近代の公文書にみる
熊本城跡の土地管理と城下の近代化


第四條　官有財産賣拂代金ハ其ノ財産
引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
第五條　官有財産ヲ貸付スルトキハ其
ノ貸付料ヲ徴收スヘシ但シ公益ノ為
官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ為
森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣
ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
第六條　官有財産ノ貸付料ハ毎年前納
セシムヘシ若シ前納スル能ハサルト
キハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム
睦仁
明治二十三年十一月二十四日

「御署名原本・明治二十三年・勅令第二百七十五号・官有財産管理規則」
JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.A03020087600　（国立公文書館蔵）

絵葉書　熊本百景「平坦道路磐根橋及新堀橋」（講師蔵）

令和6年（2024年）5月28日（火）14:30―16:00

熊本市総務局 行政管理部 総務課　文化財保護審議員　美濃口 紀子

本日の講義内容（約80分）

近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化

1 はじめに	2 近代の土地管理	3 事例紹介	4 おわりに
❶近代と現代の公文書について「現状変更」から考える ❷アジア歴史資料センター（JACAR）利用 ❸城内への建物設置経緯（鎮台、神社、病院等） ❹存城・廃城と六鎮台の設置	❶熊本鎮台の所轄地面積 ❷熊本城の土地貸渡、貸付、準貸付 ❸陸軍省所轄地関係法令・規則、時期区分の試案	❶兵器支廠設置と桜橋架橋 ❷天守台への配水池計画 ❸熊本市電と平坦道路 ❹銅像建設と都市計画 ❺城内の改変と軍用地移転・拡大など	❶公文書から何がわかるか ❷公文書＝１次資料の重要性 ❸公文書を検索してみよう

❶近代と現代の公文書について「現状変更」から考える

空中写真（2016年）国土地理院ウェブサイト（下記）を加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/#14/32.801589/130.715075/&ls=nendophoto2016&disp=1&lcd=nendophoto2016&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1

❷アジア歴史資料センター（JACAR）を利用する

近代の熊本城跡
⇔ 軍用地＝官有財産
⇔ 公文書（土地管理）

JACAR（アジア歴史資料センター）
【防衛省防衛研究所】

⇒いつでも、どこでも
だれでも、無料で！

美濃口紀子（2021）
「近代の公文書にみる 熊本城跡の
土地管理と 城下の近代化」
『熊本都市政策 vol.8』
熊本市都市政策研究所

❸城内への建物設置経緯（鎮台、神社、病院等）

例：錦山神社（現 加藤神社）の城外移転に関する公文書（明治6年）

14	3	28	〔錦山神社移転について伺〕	陸軍中佐田中春風	陸軍大輔山縣有朋殿	第四兵十六号之写シ 別紙田中中佐ヨ伺出候**熊本城内**ニ有之候**神社引遷**之義ハ、申出之通**不体裁**ニも有之候ハヽ、右**引遷**方之義**大蔵省**江御掛合ニ被及度、此段申進候也 四月十九日 野津少将 山県大輔殿 当**熊本城**之義ハ、戊辰以来**廃城**之見込を以**旧藩知事**願済之上、**本丸一ノ天守下**へ**錦山神社**造立之処、即本丸大手通リヲ**参詣道**トシ、両側ニ諸商人茶肆・酒店等ヲ開キ、雑人参詣、日夜雑還甚不体裁、且不用心ニも有之候処、去冬来当城ヲ本台トシ、**二ノ丸ニ兵営建築**之上ハ、右神社并ニ諸商家等本丸ニ有之候而ハ益以**不都合**ニ候条、右**神社速ニ他之地処引遷シ**、諸**商家**悉為**引払**候様致度、至急御詮議有之度、此段伺進候也 明治六年三月二十八日 陸軍中佐田中春風 陸軍大輔山県有朋殿	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C08052154300、『明治６年　卿官房　7月』（防衛省防衛研究所）	216
15	7	7	旧熊本城内錦山神社之儀	叙従六位正七位 立野明貞	陸軍省	陸軍省日誌明治六年第二十九号 〇七月七日 御沙汰書写叙従六位 正七位 立野明貞 御達書写 **白川県管下肥後国旧熊本城内錦山神社**之儀**鎮台営中**ニ属シ**差支**候趣ニ付テハ可**引移**候尤**入費**之儀ハ**其省定額之内ヨリ辨給**可致此旨相達候事・・・	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C08010390500、『明治６年季陸軍省日誌　利　利丙　第２７号従７月同年第４７号至９月』（防衛省防衛研究所）	—

例：鎮台砲兵営・病院の城内設置に関する陸軍の公文書（明治7年）

32	10	25	熊本鎮台砲兵営・病院建築地・練兵場について照会	陸軍大佐小澤武雄	内務卿大久保利通殿大少丞御中	第千九百八十五号 先般未追々及御掛合置候**熊本鎮台砲兵営并病院建築地**及練兵場之儀、至極差急キ候処、右者鐘兼而御申越之趣も有之候得共、只今如何之御進退ニ相成候哉、至急承知致度、此段及御掛合候也　明治七年十月廿五日　陸軍大佐小澤武雄　内務大少丞御中	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C04025925900、『明治７年 大日記 官省使府県 送達１０月土 陸軍第一局』（防衛省防衛研究所）	223
33	10	27	熊本鎮台砲兵営・病院建築地・練兵場渡方について照会	陸軍卿山縣有朋	内務卿伊藤博文殿	第千九百九十六号 **第六軍管白川縣下熊本鎮台砲兵営并病院建築地及練兵場御渡**方之儀ニ付、追々及御懸合候処、右之内**砲兵営建築并練兵場御渡**相成候付、成規之通リ正院へ上申可致様、一昨廿五日御回答之趣致承知候、然ル処、右練兵場之儀者於当省多少商議之次第も有之候ニ付、追而何分及照会候迄御見合置有之度、尤病院建築地所之儀者右砲兵営地一同御渡相成候様致度、此段及御懸合候也 明治七年十月廿七日 陸軍卿山縣有朋　内務卿伊藤博文殿	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C04025927000、『明治７年 大日記 官省使府県 送達１０月土 陸軍第一局』（防衛省防衛研究所）	224

例：下馬橋から第六師団司令部まで国道延伸の公文書（明治35年）

309	9	26	地所并石垣等下付稟請	熊本県知事徳久恒範（印）	陸軍大臣寺内正毅殿	壱第九九七号 二第一〇〇九号 地所並石垣等下付稟請 第十一号**国道**ノ終点ハ本縣熊本市山崎町下馬橋ニ止リシヲ、旧城内南坂ノ道路ヲ改修スルノ必要相生セシ為メ、該終点ヲ第六師団司令部入口マデ拡張シ、目下専ラ工事中ニ有之候処、該道路改修計画ノ儀ハ埋立ノケ所多ク、其最高点ノ所ハ弐拾六尺餘ニシテ、切取ノ土料ヲ以テ之ヲ補填スルモ其五分ノーダニ及バズ、就テハ境内其他第六師団ニ於テ故障ナキ所ヨリ運搬シツヽアルモ、尚未ダ充分ナラズ、又右改修工事ノ結果、該道路付近ニ於テ追加工事ヲ要スルモノモ多端ニ有之、土石ノ供給何分不足ヲ告ケ困難少カラズ候条、別紙図面中舛形ノ一部、則甲乙号ノ石垣及其内側ノ地所ハ、挙テ本縣へ御引渡相成候様致度、此段稟請候也 明治三十五年九月廿六日 熊本縣知事徳久恒範（印） 陸軍大臣寺内正毅殿	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C04013856700、地所並石垣下付の件（防衛省防衛研究所）	374

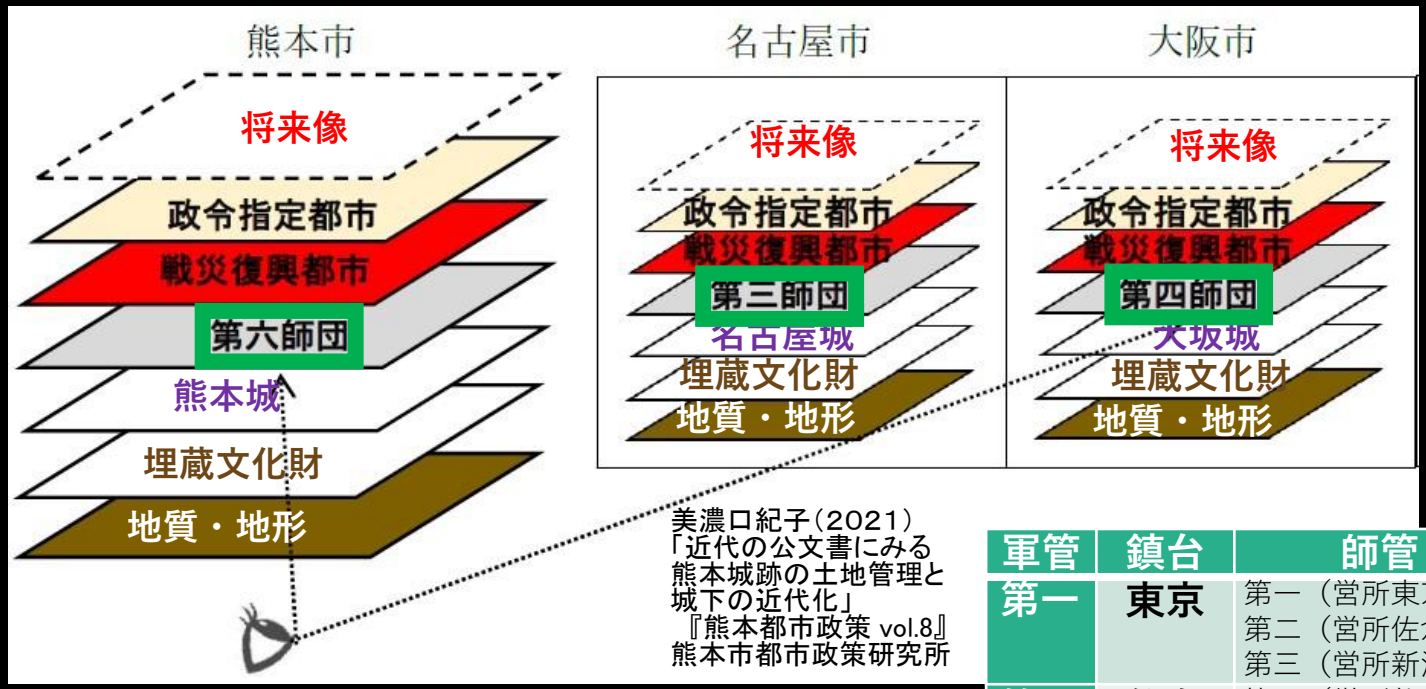
美濃口紀子（2021）「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」
『熊本都市政策 vol.8』 熊本市都市政策研究所　掲載の「付表」より

No. 和暦 西暦 月日 資料名 差出作成 宛所 内容 引用元 歴史No.

No.	和暦	西暦	月	日	資料名	差出作成	宛所	内容	引用元	歴資No.
1	明治3	1870	9	5	熊本城廃隳意見書	熊本藩知事	弁官御中	臣**護久**謹按スルニ、兵制一変、火器長ヲ専ニセシヨリ昔時之金城湯池今已ニ**無用ノ贅物**ニ属セリ、加之、今日**各地ノ城郭**アルハ、応仁以来強族割拠、織田氏安土ノ築キアルニ始リ、諸豪相倣イ務テ塁壁ヲ高スルニ由ル、即戦国ノ餘物也、今也王化洪流三治一致ノ際、乱世ノ遺址猶方隅ニ棊峙スルハ四海一家ノ宏謨ニ障礙アルニ近シ、**熊本城**ハ**加藤清正**ノ築ク所、宏壮西陲ノ雄ト称ス、臣カ家祖以来倚テ以テ藩屏タリ、豈甘棠ノ念無ラン哉、然ト云トモ**維新**ノ秋ニ膺リ、建国ノ形跡ヲ存シ、却テ管内固陋ノ民俗ヲ養ヒ、以テ辺土ノ旧習ヲ一洗ス可ラス、願クハ天下ノ大體ニ依テ**熊本城ヲ廃隳**シ、以テ臣民一心ノ微ヲ致シ、且以テ**無用ヲ省キ実備ヲ尽サン**、伏乞速ニ明断ヲ垂レヨ、護久誠惶頓首敬白　庚午九月五日　熊本藩知事　弁官　御中	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A15070850400、『太政類典・第一編・慶応三年～明治四年・第百七巻』（国立公文書館）	207
2	明治4	1871	4	23	東山西海両道ニ鎮台ヲ置キ兵部省ノ管轄ニ属	太政官	兵部省	四年四月二十三日布告兵備ハ沿国ノ要安民ノ其方今ノ急務ニ候依之今般葦毅ノ下ヲ始メ守衛警備ノ事次第ニ御施設ニ相成猶追々**諸道ニ鑓台ヲ置**兵務ヲ総括シ全国ヲ保護被遊度思食ニ候条先ツ別紙ノ通東西ノ要地ニ於テ両鎮台ノ被置候事誌又兵部東山道鑓台本営石巻分営福島盛岡**西海道鑓台本営小倉分営博多日田**	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A15070838700、『太政類典・第一編・慶応三年～明治四年・第百六巻』（国立公文書館）	—
3			4	24	熊本佐賀両藩ノ兵ヲ西海道鎮台ニ出サシム	太政官	兵部省	四年四月二十四日兵部省へ達今般**西海道鎮台**ヲ被置候ニ付**熊本佐賀両藩之兵**一大隊ツヽ差出候様可申達事誌又兵部	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A15070863500、『太政類典・第一編・慶応三年～明治四年・第百八巻』（国立公文書館）	—
4			4	24	今般西海道鎮台設置に付其藩兵1大隊出張申	兵部省	熊本藩	今般**西海道鎮台**ヲ被置候ニ付其藩兵一大隊出張申付候事　辛未四月二十四日　兵部省　**熊本藩**　右同文　辛未四月二十四日　兵部省	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C10070844700、『明治4年4月～5月・陸軍諸達　利4』（防衛省防衛研究所）	—
5			5	9	鹿児島熊本佐賀三藩ニ緩急事変ノ際西海道鎮	兵部省	太政官	五月九日兵部省伺鹿児島藩二大隊**熊本藩**一大隊佐賀藩一大隊今般**西海道鎮台**被建置候ニ付テハ緩急事変ノ節本営支営ヨリ何時出兵申付候儀モ可有之ニ付兼テ用意可致置旨相達申度此段相伺候也四年五月九日但諸給養追テ何分ノ御沙汰有之迄ハ其藩ニテ給養可致置旨モ可相達ト存候間是又申出仕候也御指令伺ノ通衆規淵鑑	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A15070863700、『太政類典・第一編・慶応三年～明治四年・第百八巻』（国立公文書館）	—
6			8	23	熊本県邸鎮台建設等に必要の件	兵部省	正院御中	送第百四十五号 別紙熊本県部之儀否可申出旨致承知候得御**鎮台建設**相ヨリ追ニ多分之兵隊屯営之為メ是非必用之儀ニ所坐候間司法省書面之趣スヘハ坐候得旨当省へ**御渡**相成度最初ヨリ右県出相議之上相約メ置候儀ニ而**引渡**之義当月二十五日已後ニ以了願ニ於テ差支無之内ニ御答候間二十六、二十七日当日之内へ当省へ**御渡**一間之ヨリ様其筋	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C10070874100、『明治4年　御指令済書類』（防衛省防衛研究所）	—
7			11	23	全国城郭毀廃ノ所置方ヲ各鎮台ニ心得シム	軍務局	陸軍省	**全国城廓毀廃ノ所置**方ヲ**各鎮台**ニ心得シム　軍務局ヨリ本省へ伺　全国城廓毀廃其外処置方等諸縣ヨリ伺出候儀、都テ当分ノ処従前ノ向々へ御差置、或ハ**城郭引渡**等伺出ノ砌ハ、其**所管鎮台**ヨリ伺出可申様附紙相達候間、此段相心得置、不受取候テ不叶儀ニ候ハヽ、其台見込ヲ以テ番人両人程其地方官へ打合相雇、給料壱人ニ付一ヶ月金三両ヲ高ニシテ其土地柄ニ寄リ、或ハ二両宛差遣シ候共、便宜ニ処置致シ地方官へ打合給料取替置、年末鎮台ヨリ計算可致候事　右ノ通鎮台へ御布告相成候事　衆規渕鑑	JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A03023307900、『公文別録・陸軍省衆規渕鑑抜粋・明治元年～明治八年・第三十二巻～第三十五巻』（国立公文書館）	211

美濃口紀子（2021）「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」
『熊本都市政策 vol.8』 熊本市都市政策研究所　掲載の「付表」より

❹存城・廃城と六鎮台の設置



美濃口紀子（2021）
「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」
『熊本都市政策 vol.8』
熊本市都市政策研究所

【城跡の歴史】
未　来
現　代
近　代
近　世
中　世
古　代
古墳時代
弥生時代
縄文時代
旧石器時代

近代における城郭
↓
「廃城」「存城」

高知城
ほか

廃城

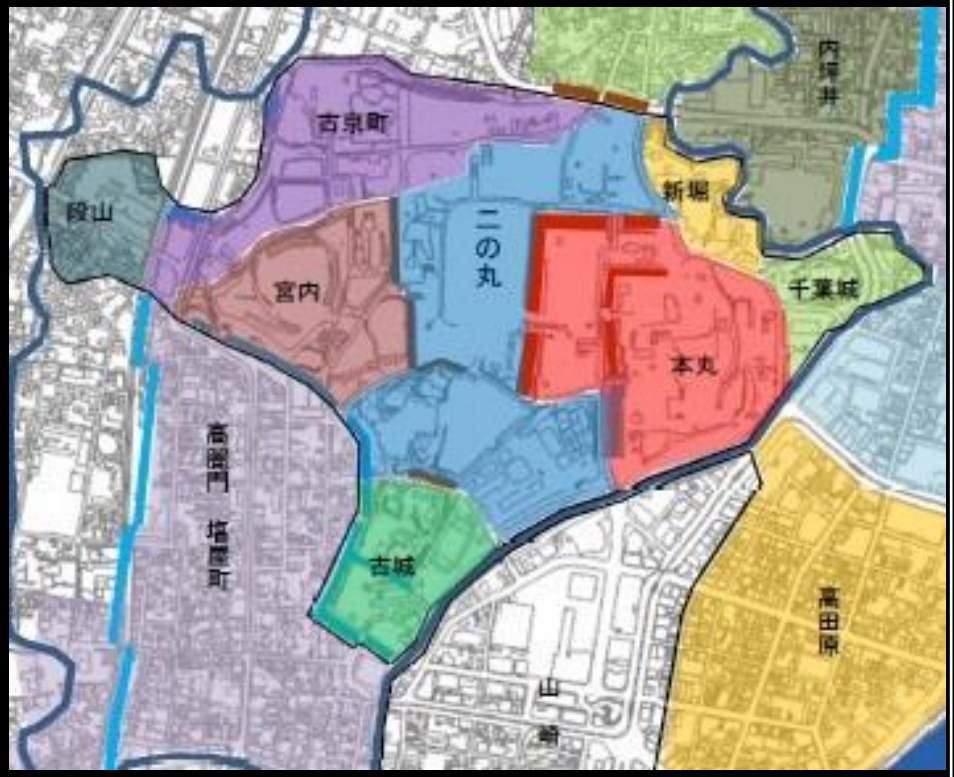
仙台城
名古屋城
大坂城
広島城
熊本城
ほか

存城

軍管	鎮台	師管	師管管内営所
第一	東京	第一（営所東京） 第二（営所佐倉） 第三（営所新潟）	小田原　静岡　甲府 木更津 水戸 宇都宮 高田　高崎
第二	仙台	第四（営所仙台） 第五（営所青森）	福島　水沢　若松 盛岡　秋田　山形
第三	名古屋	第六（営所名古屋） 第七（営所金沢）	豊橋　岐阜　松本 石川県内七尾　福井
第四	大坂	第八（営所大坂） 第九（営所大津） 第十（営所姫路）	兵庫　和歌山　西京 敦賀　津 鳥取　岡山　豊岡
第五	広島	第十一（営所広島） 第十二（営所丸亀）	松江　浜田　山口 徳島 高知県内須崎浦 宇和島
第六	熊本	第十三（営所熊本） 第十四（営所小倉）	千歳　飫肥　鹿児島　琉球 福岡　長崎　対馬

六鎮台 1873・7・19「改訂鎮台条例」

❶熊本鎮台の所轄地面積



熊本市熊本城調査研究センター2019『特別史跡熊本城跡総括報告書　歴史資料編』（史料・解説）（絵図・地図・写真）より加工して作成

熊本城跡の土地は官有財産となり陸軍省の管理下へ

明治14（1881）年時点の熊本鎮台所轄地面積等
熊本県1883『明治十六年熊本県統計書』（国立国会図書館蔵）より筆者作成

＊面積「１反」をメートル法に換算すると、約991.736㎡

地種	地目	地名	反別＊	地価
第二種	鎮台	熊本区本丸	166反10414	8,167.82
	同崖地	〃	32反40482	
	陸軍用地	〃区二の丸	201反31406	12,492.52
	同崖地	〃	23反72000	
	陸軍用地	〃区宮内町	18反30489	1,371.52
	同崖地	〃	6反31580	
	陸軍用地	〃	69反00398	5,167.71
	同崖地	〃	21反00731	
	陸軍用地	〃区千葉城	42反00750	2,964.60
	同崖地	〃	12反40796	
	陸軍用地	〃区古城町	31反82892	2,695.81
	同崖地		12反61099	
	陸軍用地	〃区古京町	6反11279	442.27
	同	〃	98反91768	7,125.04
	同崖地	〃	36反31428	
	同川敷	〃	62952	
	陸軍用地	〃区新堀町	16反12303	1,707.30
	同崖地	〃	6反00243	
	陸軍用地	〃区山崎町	274反50810	34,944.54
	※以下、「託麻郡健軍村「合志郡豊岡村」「〃郡須恵村」「〃郡津久礼村」と続く。本稿では郊外の鎮台所轄地の記載は省略			
	県庁	熊本区古城町	20反80309	3,560.43
	囚獄	〃	9反70465	1,662.22

❷熊本城の土地貸渡、貸付、準貸付

1880・1・27	貸渡	山崎町花畑工兵作業場
1880・6・28	貸渡	古京町・砲兵第三大隊営西岸下
1880・7・28	貸渡	千葉城工兵営東崖下
1880・10・27	貸渡	記念碑建設地ノ隣地
1880・10・29	貸渡	山崎町字花畑
1880・11・10	貸渡	山崎町花畑下地
1880・11・19	貸渡	熊本内城内
1881・12・23	貸渡	県庁北裏（古城町）
1882・1・19	貸渡	県庁北手（古城町）
1882・3・24	貸渡	古京町崖下
1883・2・14	貸渡	山崎練兵場
1883・7・18	貸下	古城堀埋跡地
1883・7・19	貸下	古京町
1884・5・3	貸渡	殉難碑設置地
1885・1・31	貸渡	古城周囲塁壕（古城町）
1886・10・6	貸渡	古城町、古京町
1887・6・22	貸渡	古京町北崖下・古城堀端
1888・3・10	貸渡	古城町
1889・7・18	貸渡	古城内旧熊本警察署跡：五高
1890・2・25	貸渡	梅屋敷：熊本電燈会社
1890・4・7	貸渡	宮内町旧工兵営
1891・5・26	貸渡	将校集会所当番室用其他地所
1891・9・12	貸渡	将校集会所ノ物置場用地
1893・6・30	貸渡	梅屋敷：熊本電燈会社
1894・3・19	貸下	島崎村：九州鉄道会社
	継続使用	梅屋敷：熊本電燈会社
1899・3・6	貸渡	島崎村段山
1899・4・12	貸渡	宮内町・古城町
1901・11・20	用地使用	古城外堀：肥後水産協会
1902・9・27	貸渡	藤崎台：熊本県の公園化計画

1910・5・30	貸下	新堀町・古京町：菊池軌道
1910・9・20	貸下	古城町蓮堀ノ一部：大日本軌道
1910・11・2	貸下	古京町：大日本軌道
1911・7・7	用地使用	招魂祭壇敷地
1911・7・31	用地使用	歩兵第二十三連隊敷地内：派出所
1912・2・1	貸下	本丸町：盆栽置場
1913・4・8	貸下	宮内町：熊本招魂祭団
1913・4・9	貸下	千葉城町：山崎正董の草花園
1913・12・11	貸下	古城町：材木置場・石材置場
1914・7・23	貸下	古城町：蓮堀
1916・11・9	貸下	古城町：材木置場・石材置場
1917・1・29	貸下	本丸町：盆栽置場
1917・1・29	貸下	古城町：蓮堀
1918・2・5	貸下	宮内町：熊本招魂祭壇建設
1918・10・22	貸下	本丸町：撃剣道場建設用地
1919・3・11	貸下	古城町：材木置場・石材置場
1919・3・11	貸下	本丸町：盆栽置場
1919・8・26	貸下	本丸町水壕：蓮植付・養魚
1920・5・29	貸下	新堀町・古京町：菊池軌道
1920・8・10	無料使用	島崎村段山作業場：電柱材貯蔵場
1920・10・28	貸下	本丸町：撃剣道場敷地
1921・1・28	貸下	宮内町：招魂祭祭壇建設
1921・3・19	貸下	本丸町：盆栽置場
1921・4・26	貸下	千葉城町：帝國在郷軍人会事務所

美濃口紀子2022「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」『熊本都市政策Vol.8』熊本市都市政策研究所より一部抜粋・加工

1922・10・9	準貸付	本丸町：撃剣道場敷地
1924・7・26	準貸付	記念碑移転敷地（行幸橋北東）
1925・10・10	準貸付	宮内町：公共飲料用及び防火用
1926・4・29	準貸付	故谷村計介銅像建設（行幸橋北東）：熊本市長
1927・3・23	準貸付	本丸町：牛砲用火薬倉庫敷地：熊本市長
1927・4・28	準貸付	宇土櫓及續櫓修繕：熊本城趾保存会長
1929・5・3	準貸付	本丸町午砲敷地：熊本市長
1934・3・25	準貸付	熊本偕行社（千葉城町）
1935・3・25	準貸付	本丸町午砲敷地：熊本市長
1936・3・12	準貸付	故谷村計介銅像敷地（行幸橋北東）：熊本市長
1937・2・26	準貸付	本丸町：午砲用火薬倉庫敷地：熊本市長
1938・3・15	準貸付	宮内町：熊本招魂祭祭壇敷地：熊本市長
1939・3・17	準貸付	防空警報及午砲用サイレン設置敷地：熊本市長

「貸渡」 → 「貸下」 → 「準貸付」

❸陸軍省所轄地関係法令・規則、時期区分の試案

1868	1	明治元　明治維新、神仏分離令
1869	2	明治2　版籍奉還、知藩事（261人）を任命
1870	3	明治3　藩政改革を公布
1871	4	明治4　廃藩置県、全国城郭毀廃ノ所置方ヲ各鎮台ニ心得シム
1872	5	明治5　地券渡方規則
1873	6	明治6　地所名称区別、改訂鎮台条例、地租改正条例、存城・廃城決定
1874	7	明治7　地所名称区別改定、五鎮台所管土地建物区入費ヲ要スルモノ該台経営部ニ於
1875	8	明治8　公用土地買上規則、土地家屋貸渡方、陸軍省所轄諸城並土地家屋貸渡方
〃	〃	〃　存城ニ孕メル軍事関渉ノ土地家屋従来人民借受ノ分ハ城内同様無遺漏可取調
1878	11	明治11　陸軍省所轄土地家屋人民エ貸渡規則
1879	12	
1880	13	明治13　土地売買譲渡規則
1881	14	
1882	15	明治15　陸軍所轄地拝借願及明細書（書式）
1884	17	
1885	18	明治18　鎮台条例改正、各鎮台の歩兵連隊で旅団を編成
〃	〃	〃　陸軍省所轄土地家屋貸渡規則、陸軍参謀本部測量局が正式地形図作成を開始
1886	19	明治19　登記法、陸軍省官制
1887	20	
1888	21	明治21　市制・町村制公布、師団司令部条例制定
1889	22	明治22　大日本帝国憲法公布、市制・町村制施行開始、土地台帳規則、土地収用法
1890	23	明治23　陸軍省所轄土地家屋貸渡規則ヲ廃ス、官有財産管理規則、官有地取扱規則
〃	〃	〃　官有地特別処分規則
1891	24	明治24　官有財産目録（陸軍省「土地ノ部」）
〃	〃	〃　官有財産管理規則第十六条ニ依調製スヘキ目録様式ノ件
1892	25	明治25　帝国議会へ提出スヘキ官有財産増減異動報告様式標準ヲ定ム
1893	26	
1894	27	明治27　日清戦争、臨時軍事費特別会計
〃	〃	〃　軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件貸付売渡方
1899	32	
〃	〃	
1900	33	明治33　土地収用法改正
1901	34	明治34　熊本の正式地形図完成
1902	35	
1904	37	明治37　日露戦争、臨時軍事費特別会計法
1906	39	明治39　鉄道国有法公布（翌年に九州鉄道株式会社も国有化）
1908	41	明治41　戊申詔書発布（記念事業で熊本県立第一高等女学校の運動場東端に樟を植樹）
1909	42	明治42　陸軍営繕費補充資金特別会計ノタメニスル陸軍ニ於ケル土地ノ貸付ニ関スル件
1910	43	〃　陸軍営繕費補充資金特別会計施行規則
〃	〃	
〃	〃	
1911	44	明治44　陸軍ニ於ケル土地建造物ヲ貸渡ストキ随意契約ニ依ルコトヲ得ル件
1919	8	大正8　都市計画法
〃	〃	〃　史蹟名勝天然記念物保存法公布
1920	9	大正9　官有土地貸下規則
〃	〃	
〃	〃	
1921	10	大正10　国有財産法
〃	〃	
〃	〃	
1922	11	大正11　陸軍省所管国有財産取扱規程制定
1937	12	昭和12　防空法公布、日中戦争、臨時軍事費特別会計法
1938	13	
1939	14	
1941	16	昭和16　太平洋戦争
1945	20	昭和20　終戦

貸付以前
【Ⅰ期】

「貸渡」始動
【Ⅱ期】

「貸渡」継続
日清・日露戦争期
【Ⅲ期】

「貸下」
【Ⅳ期】

「準貸付」
【Ⅴ期】

①　②　③　④　⑤

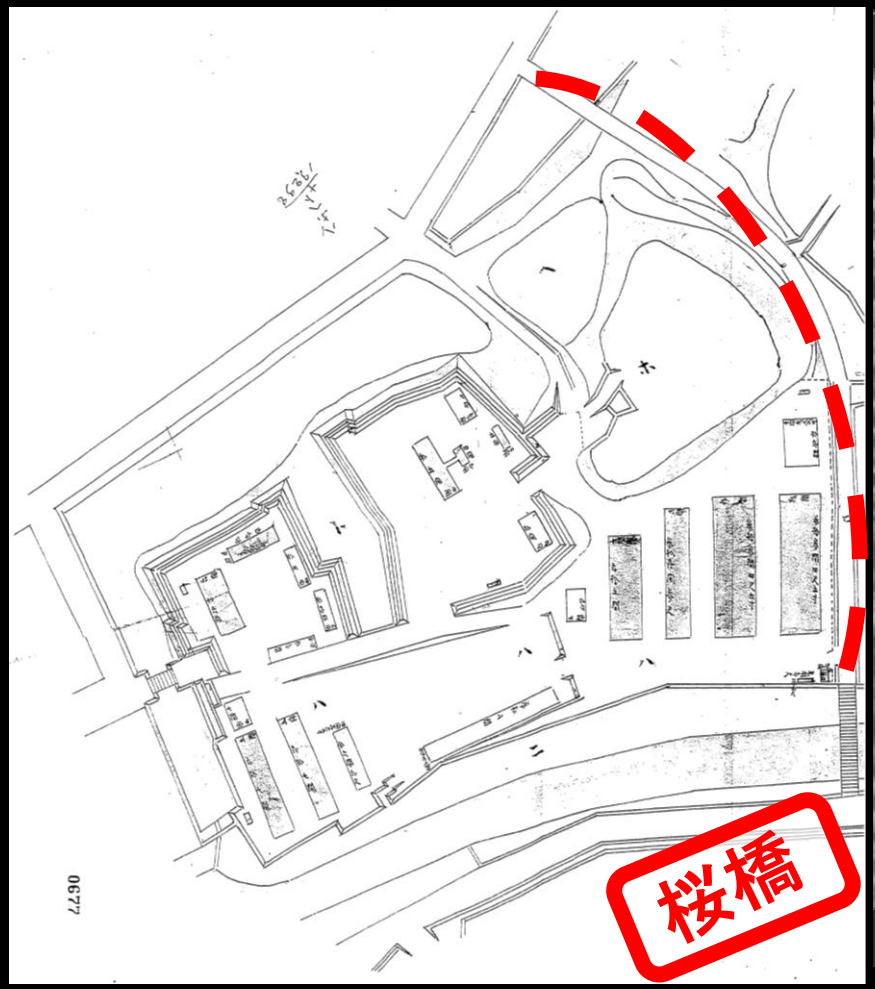
美濃口2022「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」『熊本都市政策Vol.8』熊本市都市政策研究所より一部抜粋・加工

❸陸軍省所轄地関係法令・規則、時期区分の試案

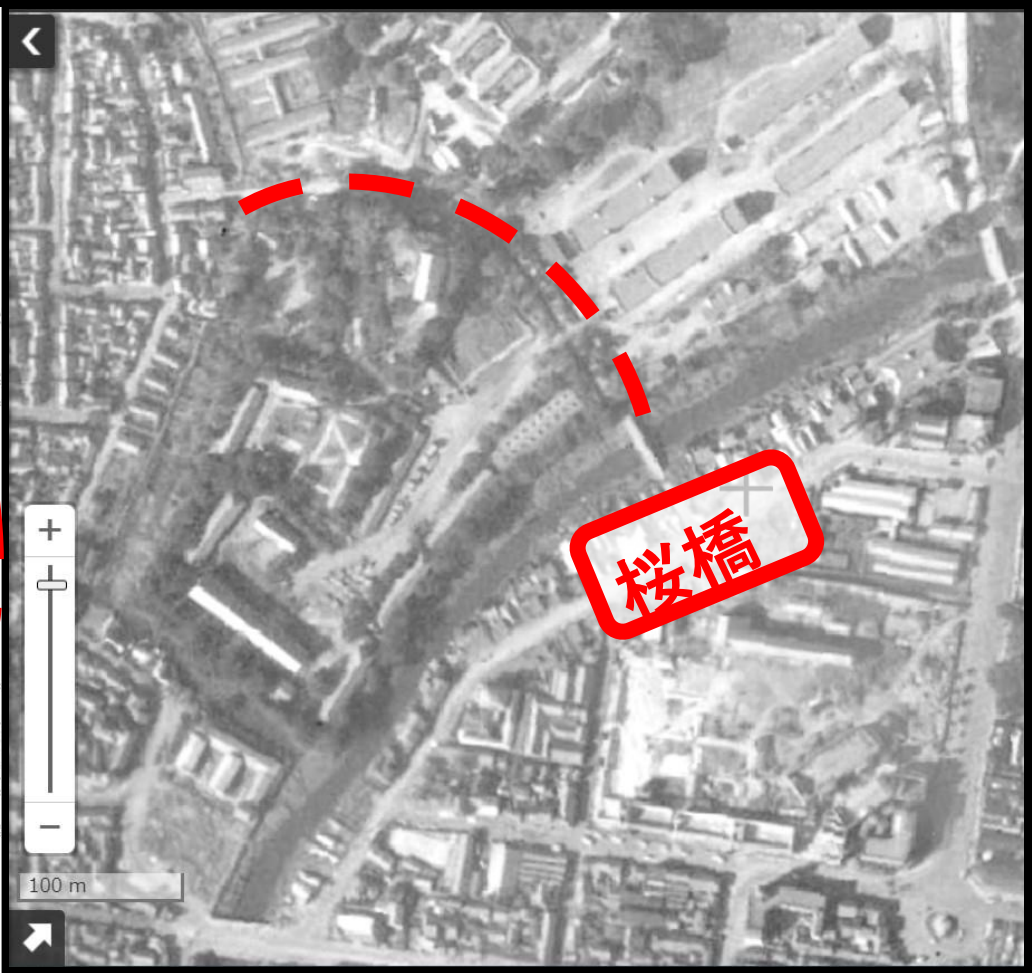
区分	年代	熊本城跡における土地管理の特徴
Ⅰ期	1871-1877	鎮台設置、陸軍用地の「取得」・「買上」期
Ⅱ期	1878-1893	土地「貸渡」始動期、官有財産目録の作成
Ⅲ期	1894-1908	土地「交換」、大規模工事、鉄道敷設・新道設置
Ⅳ期	1909-1921	土地「貸下」、配水池計画の不許可、軽便鉄道
Ⅴ期	1922-1945	土地「準貸付」期、都市計画による「管理換」

美濃口紀子（2021）「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」
『熊本都市政策 vol.8』 熊本市都市政策研究所　掲載の「付表」より

事例❶兵器支廠設置と桜橋架橋



「兵器支廠建物移転」付図
（防衛省防衛研究所蔵）【1899・4・10】



国土地理院1945-1950（熊本城の古城一帯）
「旧熊本陸軍兵器支廠兵器庫」４棟が見える

事例❶兵器支廠設置と桜橋架橋

「旧熊本陸軍兵器支廠兵器庫」（現：城彩苑付近）

国土地理院ウェブサイト（下記）を加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/#16/32.802801/130.731254/&base=ort&ls=ort%7Cort_USA10&blend=0&disp=11&lcd=ort_USA10&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m

※現存せず

兵器支廠（旧飯田組所蔵、画像提供：伊藤重剛氏）

昭和30年代取壊
第一高校・合同庁舎・県プールに

城彩苑建設に伴う調査で発見された煉瓦基礎と展示

【金沢市の類例】
国重要文化財
「旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫」
第五～七號（講師撮影）

事例❶兵器支廠設置と桜橋架橋

◀空襲後の熊本市街地

昭和20（1945）年
米軍偵察機が撮影した
損害評価用の写真

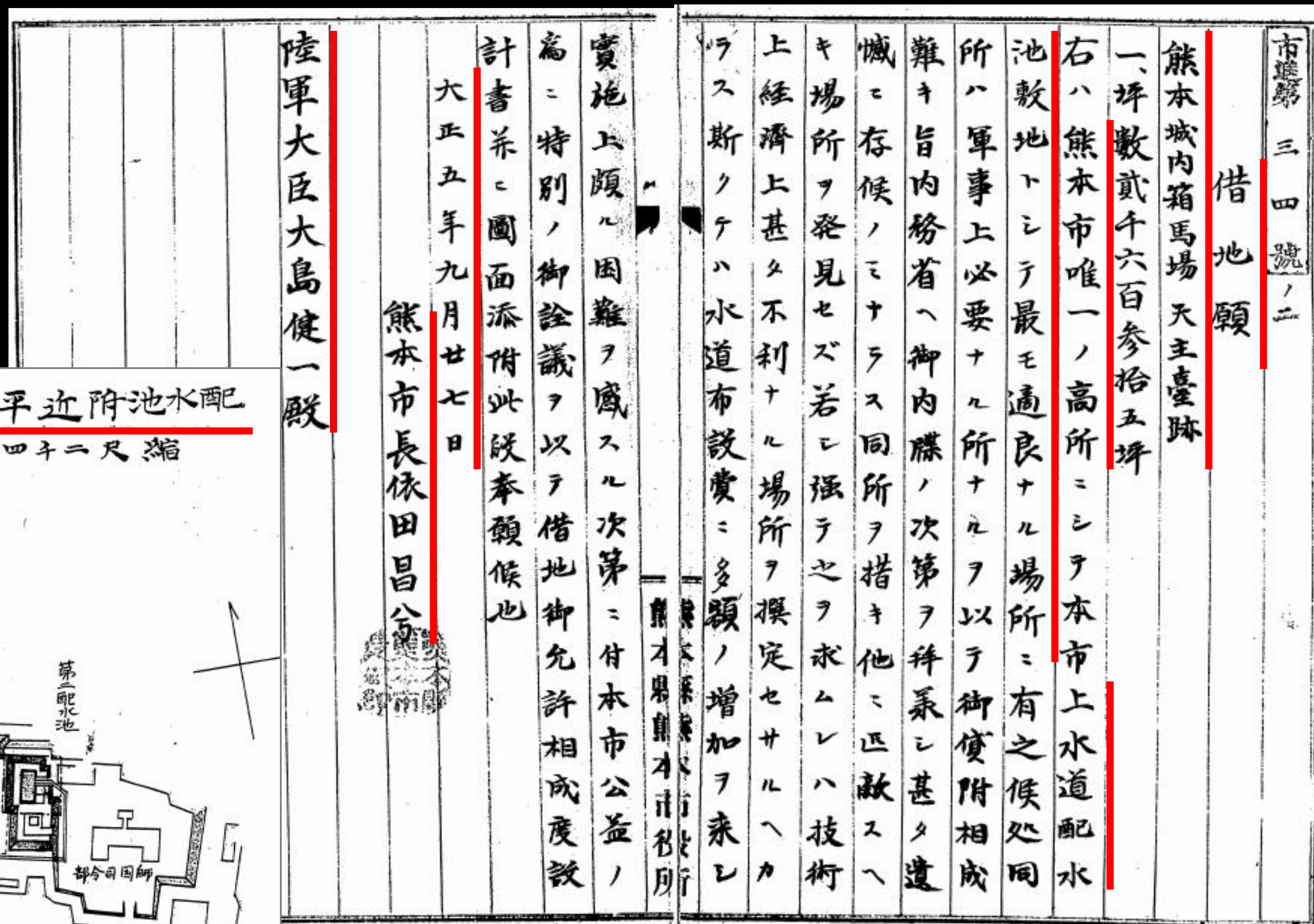
× 熊本城内は軍用地だったため、城内の建物は空襲で焼失した？（誤解）

○ 城内建物は空襲による焼失を免れて、戦後に解体された

⇒公文書に基づく正しい歴史認識を！

原所蔵機関: 米国国立公文書館 (RG243)、コレクションタイトル: 日本占領関係資料、請求記号USB-15 R15: 0764-0776、書誌ID 000006879234、コレクション情報 日本占領関係資料 > 米国戦略爆撃調査団文書 (USSBS) (RG243)、デジタル化製作者 国立国会図書館、筆者加筆（白文字）焼失を免れた熊本城内の旧軍施設とは対照的に、坪井川対岸（当時の煙草専売局、新市街、下通、県庁付近）では空襲被害が著しい（第1 地区）。

事例❷天守台への配水池計画



市號第三四號ノ二

借地願

熊本城内箱馬場 天主臺跡

一、坪數貳千六百参拾五坪

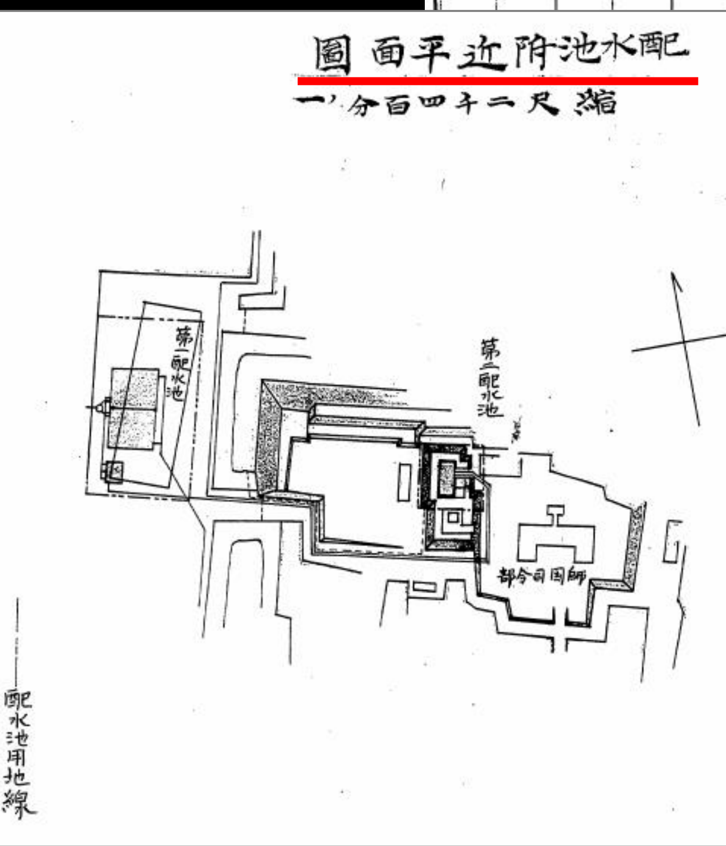
右ハ熊本市唯一ノ高所ニシテ本市上水道配水池敷地トシテ最モ適良ナル場所ニ有之候処同所ハ軍事上必要ナル所ナルヲ以テ御貸附相成難キ旨内務省ヘ御内牒ノ次第ヲ拜承シ甚タ遺憾ニ存候ノミナラズ同所ヲ措キ他ニ匹敵スヘキ場所ヲ発見セズ若シ強テ之ヲ求ムレハ技術上経濟上甚タ不利ナル場所ヲ撰定セサルヘカラス斯クテハ水道布設費ニ多額ノ増加ヲ来シ實施上頗ル困難ヲ感スル次第ニ付本市公益ノ爲ニ特別ノ御詮議ヲ以テ借地御允許相成度設計書并ニ圖面添附此段奉願候也

熊本縣熊本市役所

大正五年九月廿七日

熊本市長依田昌兮

陸軍大臣大島健一殿



「借地願 熊本城内箱馬場 天主臺跡」
付図「配水池附近平面図」【1916・9・27】
（JACAR Ref.C03010912500 防衛省防衛研究所蔵）に筆者加筆

事例❷天守台への配水池計画

第一配水池

第二配水池

宇土櫓

小天守台

大天守台

師団司令部

陸軍省の反対により
実現せず（配水池は
立田山山頂に建設）

「借地願 熊本城内箱馬場 天主臺跡」
付図「配水池附近平面図」【1916・9・27】
（JACAR Ref.C03010912500 防衛省防衛研究所蔵）に筆者加筆

事例❸熊本市電と平坦道路

絵葉書　熊本百景「平坦道路磐根橋及新堀橋」（講師蔵）

大正12（1923）年に新堀を掘り下げ平坦道路と市電を整備した際、新堀橋・磐根橋をRC方丈ラーメン橋 で架橋し、陸橋2基が堀を跨いで並んだ。

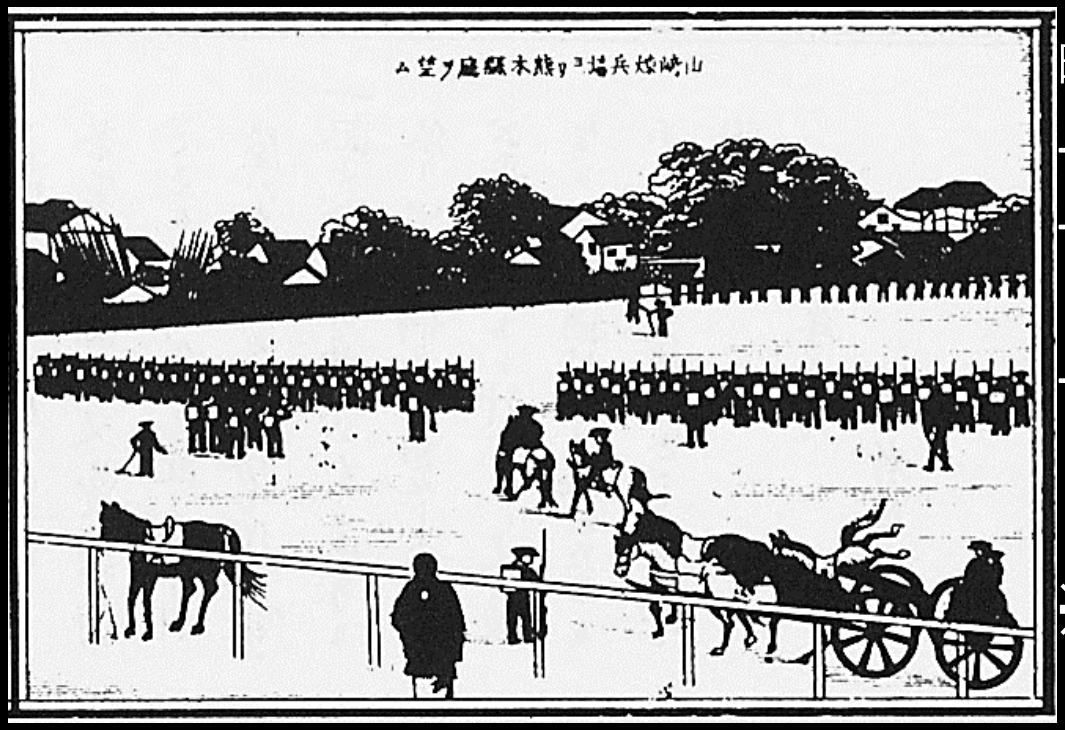
事例❹銅像建設と都市計画

もともとは市電敷設で花畑の征清紀念碑が移動する予定地だった

西暦･月･日	申請者	場所	用途
1922･10･9	大麻勇次	本丸町	撃剣道場敷地
1924･7･26 1926･4･29 1936･3･12	熊本市長	旧城門跡 石垣上ノ 一部 （行幸橋脇）	記念碑移転 改め 谷村計介銅像 建設敷地
1925･10･10	熊本市長	宮内町	公共飲料用 及び防火用
1927･3･23 1937･2･26	熊本市長	本丸町	牛砲用 火薬倉庫
1929･5･3 1935･3･25 1939･3･17	熊本市長	本丸町	午砲敷地改め 防空警報及 午報用サイレン

※戦後、当地には「特別史跡熊本城」の碑が建つ
（平成28年熊本地震で被災し、石碑が回転）

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など



明治19年頃の「山崎練兵場」（国立国会図書館）田中義幸（1886）『熊本県下商工技芸早見便覧』は、ゆまに書房（1987）『絵で見る明治商工便覧 第10巻』にも転載された。
現在は国立国会図書館デジタルコレクションでも公開されている。
青潮社（1983）『明治銅版画　熊本商家繁昌圖録』も内容は同じ。

明治10（1877）年西南戦争
→2/19城内・城下を広く焼失
→4/25電報
「山崎練兵場増地買上聞届」
→7月「熊本城郭内並山崎練兵場地所等買上」の金額に関する公文書
※西南戦争直後には城内の軍用地が城下へ拡大傾向（左図：山崎練兵場）。後に渡鹿村・大江村へ移転。
※熊本城一帯に集中していた軍用地のうち工兵第六大隊、野戦砲営第六連隊、騎兵隊、第13連隊も、後に大江村・渡鹿村へ移転していく。

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など

明治31年土地交換出願地（熊本城下）の面積
【JACAR Ref.C04013563400】に筆者加筆

【陸軍省の条件】

①第23聯隊営及び該営の南に沿って幅15間の地並びに憲兵屯所敷地を除く面積に相当する土地を大江村野戦砲兵第六聯隊付近において差出す

②騎兵営諸建物及び練兵場内の障碍飛越場の建造物をその他へ移転する

③元輜重廠の建物悉皆及び元砲兵方面支署建物中官に於いて指示する建物を野戦砲兵第六聯隊移転跡地へ移転する

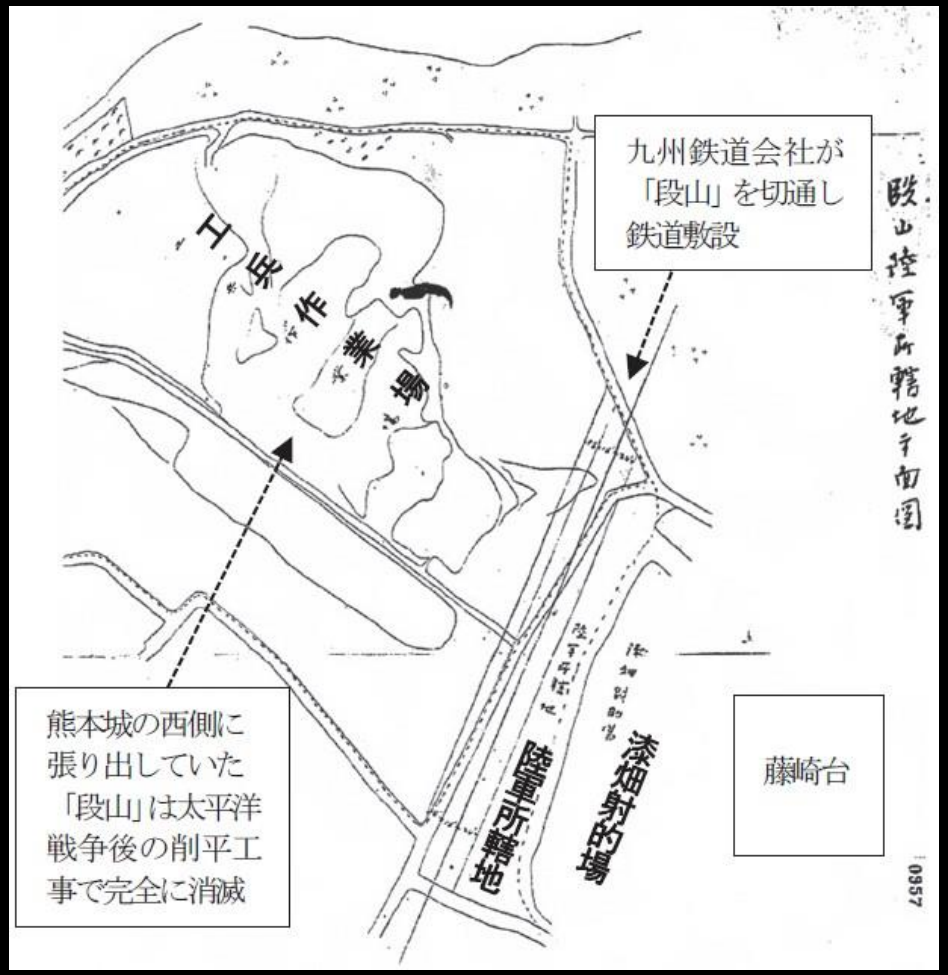
④熊本城内に道路を併設しかつ且つ橋梁を架設する

※移転工事の着手は交換許可の月より8ヶ月以内、作成の期限は着手の月より12ヶ月以内。

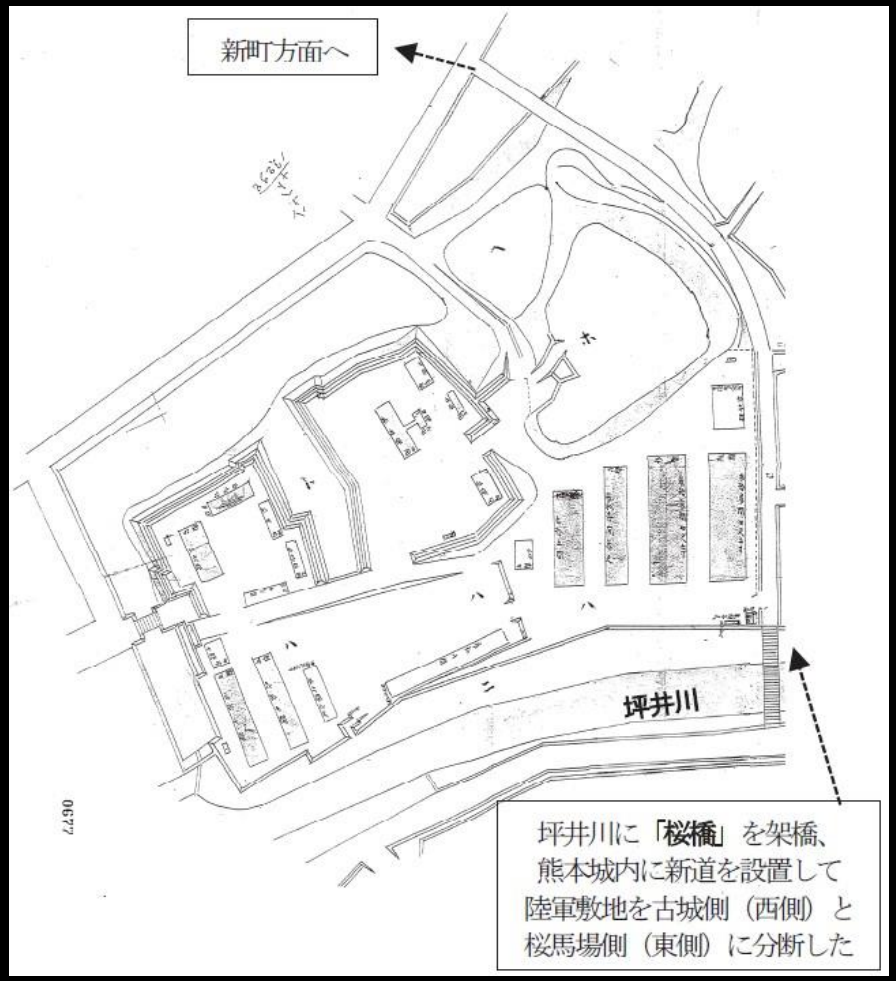
【辛島格 市長、大浦兼武 県知事】

陸軍次官中村雄次郎宛ての公文書で「市区改正収支概算」を示し、「到底一市の負担に堪え得べき事項に無い」「実施上困難の事」と述べる。

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など

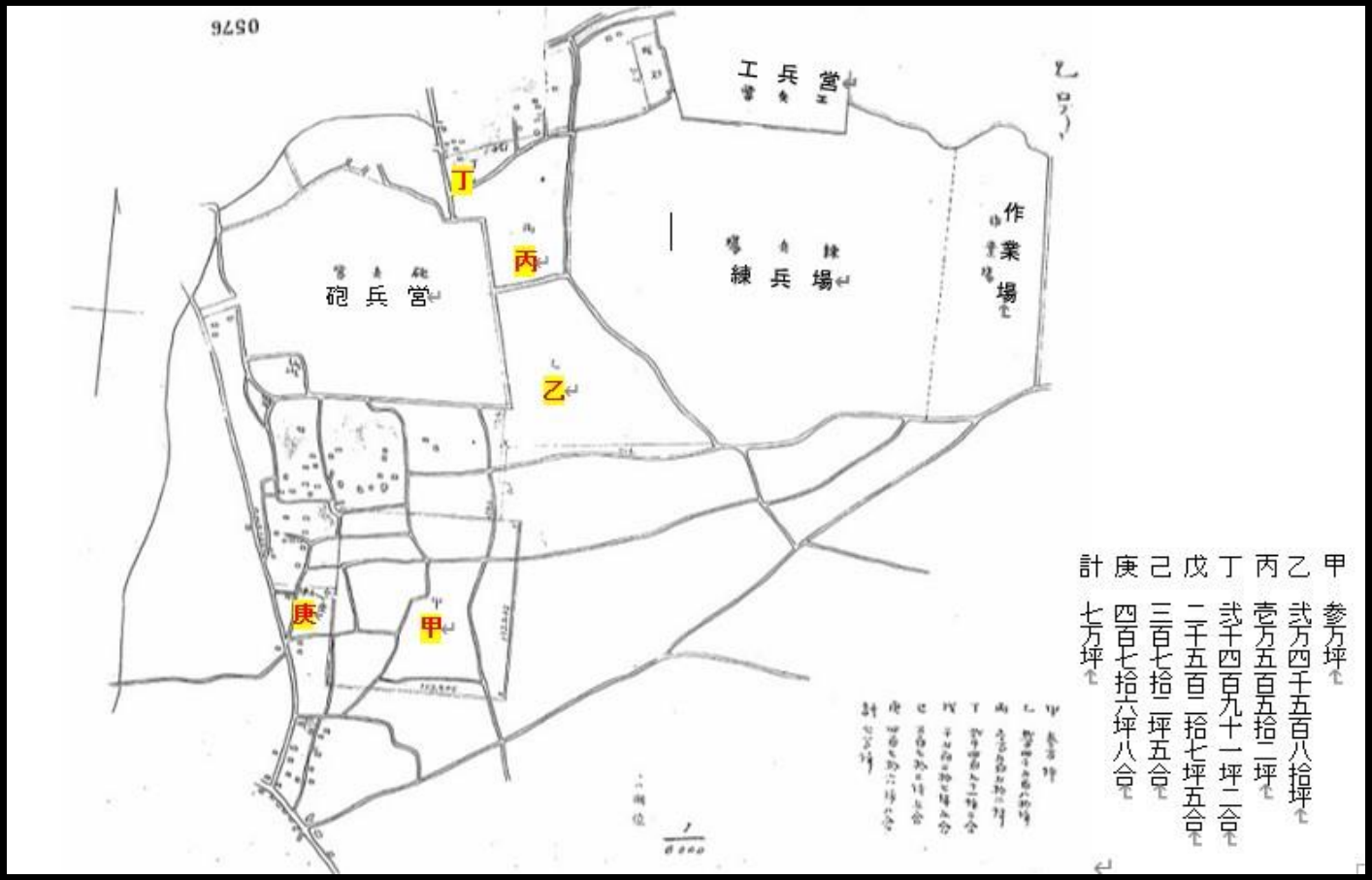


「地所貸下期限の件」付図「段山陸軍所轄地平面図」
（JACAR Ref.C03030841600 防衛省防衛研究所蔵）
【1894・3・19】に筆者加筆



「兵器支廠建物移転」付図
（JACAR Ref.C04013563500 防衛省防衛研究所蔵）
に筆者加筆【1899・4・10】

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など

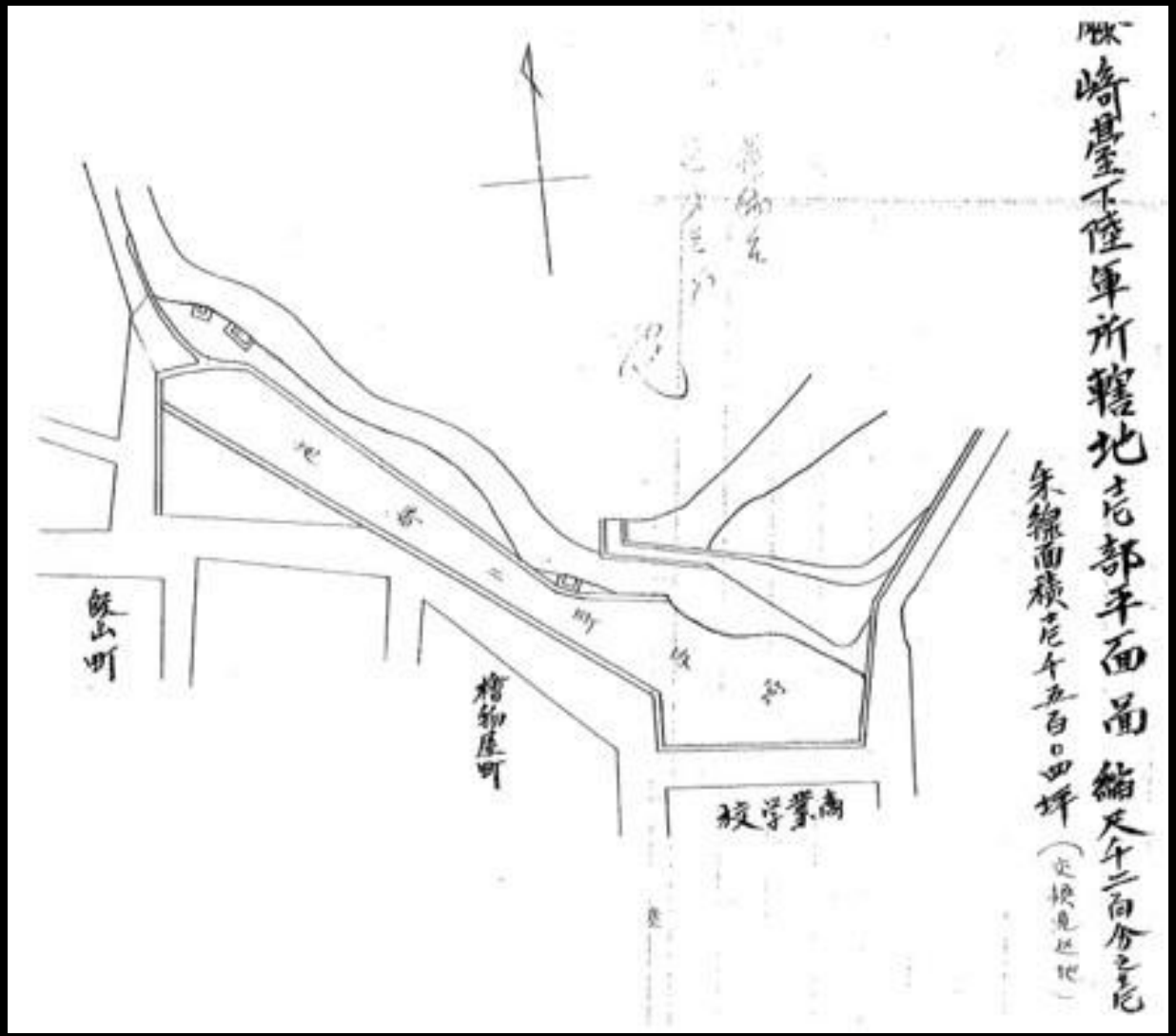


明治31（1898）年土地交換「乙号」（大江村渡鹿）
【JACAR Ref.C04013563400】に筆者加筆

甲（3万坪）
乙（24,580坪）
丙（10,552坪）
丁（2,491坪2合）
戊（2,527坪5合）
己（372坪5合）
庚（476坪8合）
計7万坪

当時既に渡鹿へ移転済みだった「練兵場」「砲兵営」等に挟まれた間隙地を塗りつぶすように陸軍省に土地が提供された。

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など



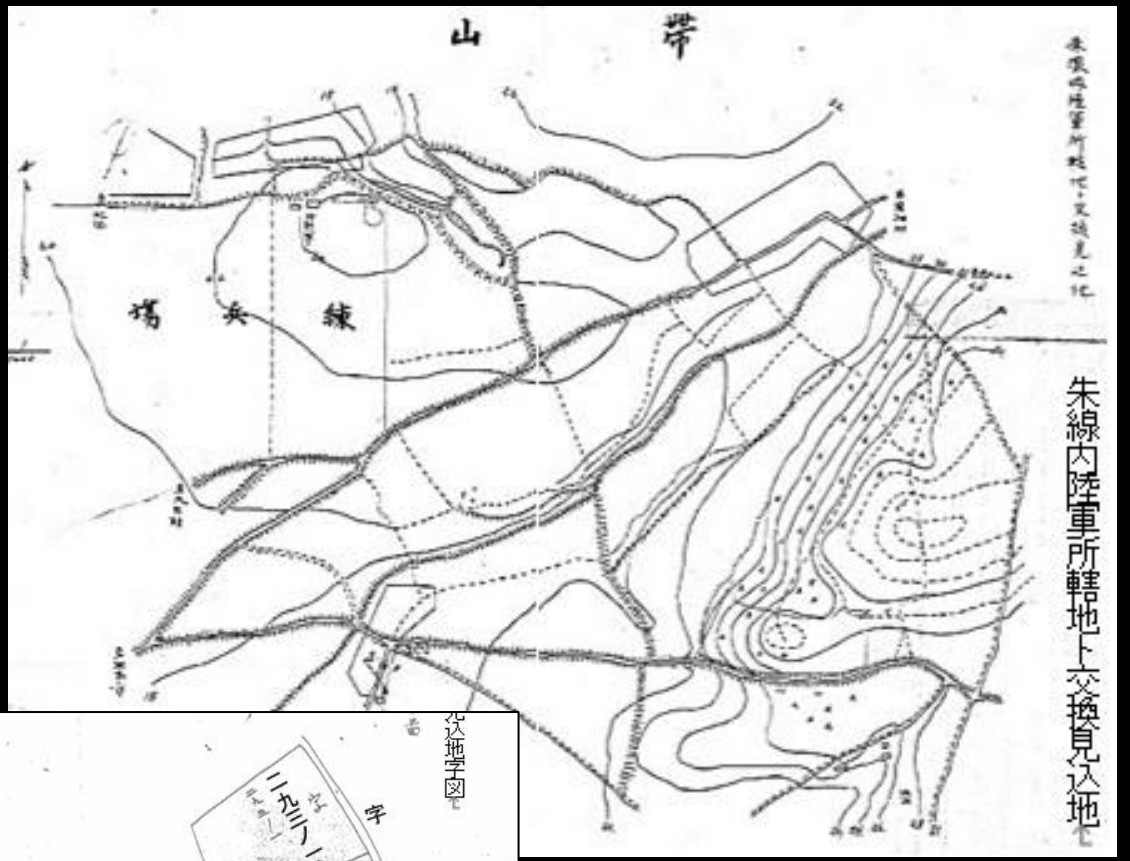
藤崎台下陸軍所轄地平面図1,504坪（交換見込地）
明治44（1911）年【JACAR Ref.C07072844900】

明治43（1910）年
藤崎台下の官有地（約1,500坪）と
帯山の大日本軌道株式会社所有地（約4,000坪）との
土地交換

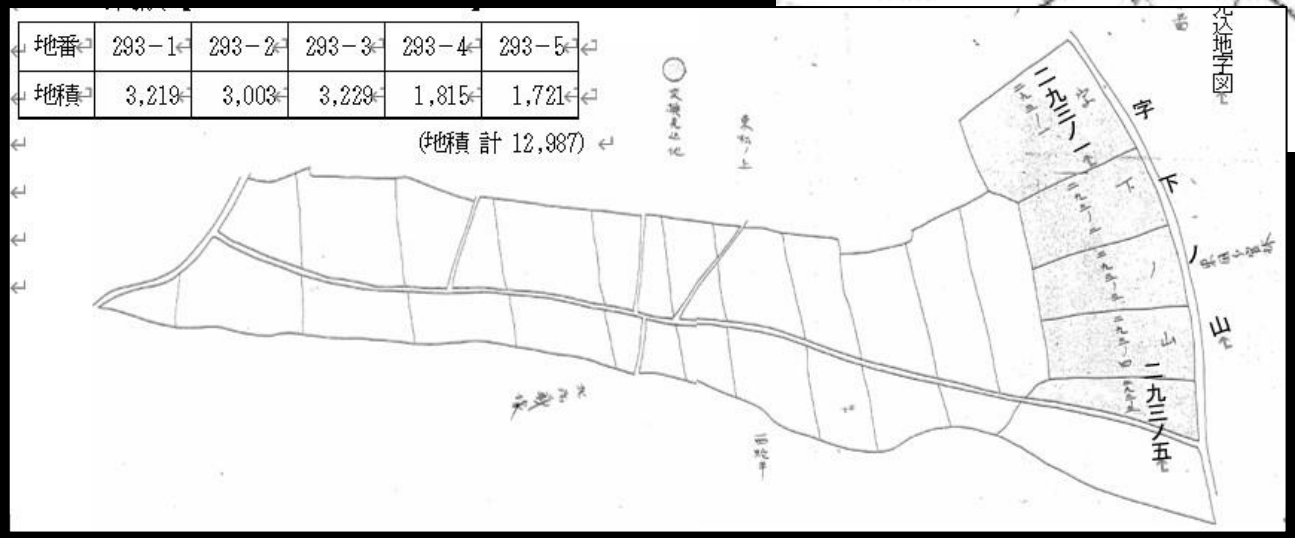
翌44（1911）年に
大日本軌道株式会社の「宮内―知足寺町」間が開通

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など

明治43（1910）年
藤崎台下の官有地
（約1,500坪）と
帯山の大日本軌道株
式会社所有地（約
4,000坪）との
土地交換

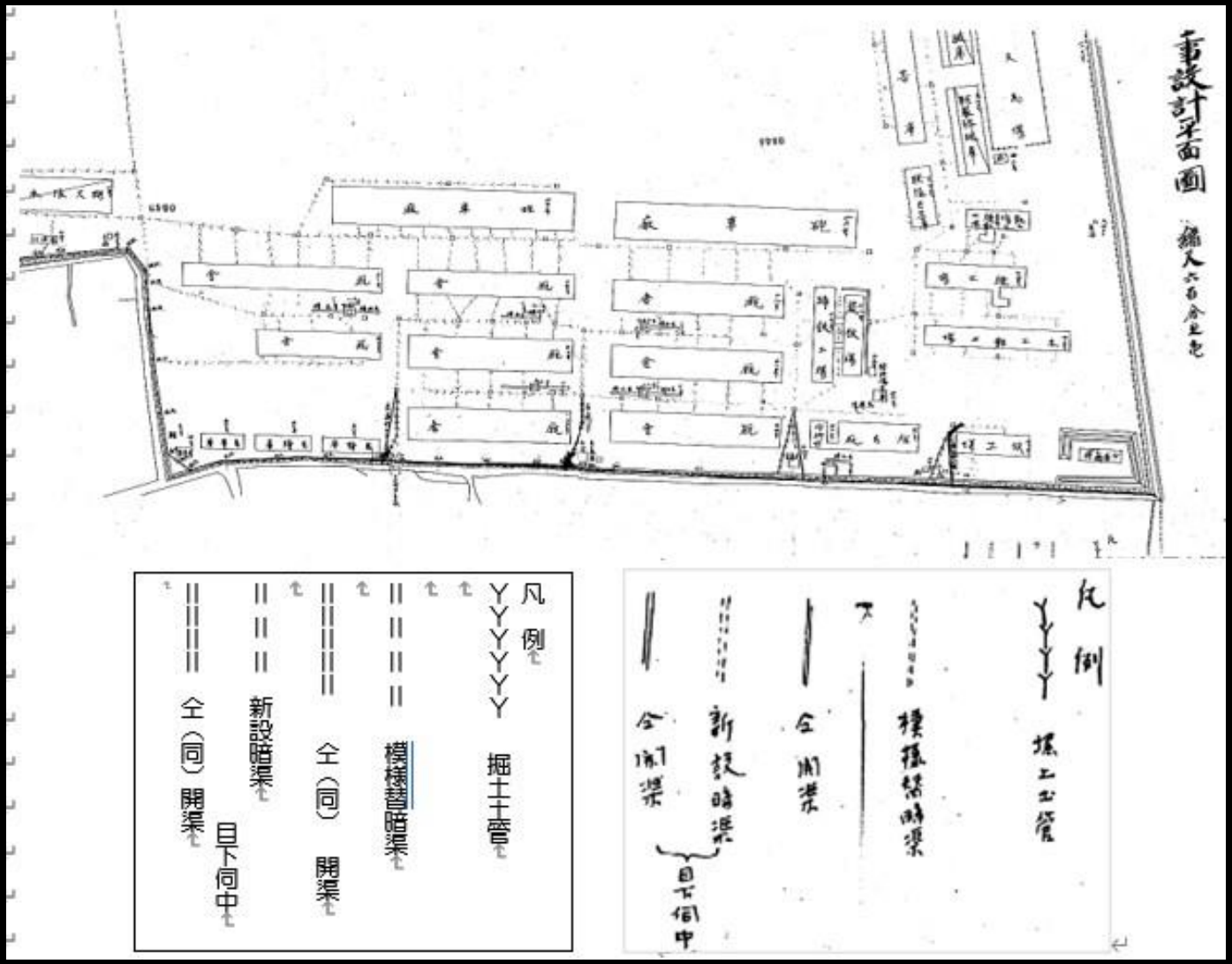


朱線内陸軍所轄地ト交換見込地
帯山練兵場明治44（1911）年
【JACAR Ref.C07072844900】



陸軍省は
帯山練兵場を整備

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など



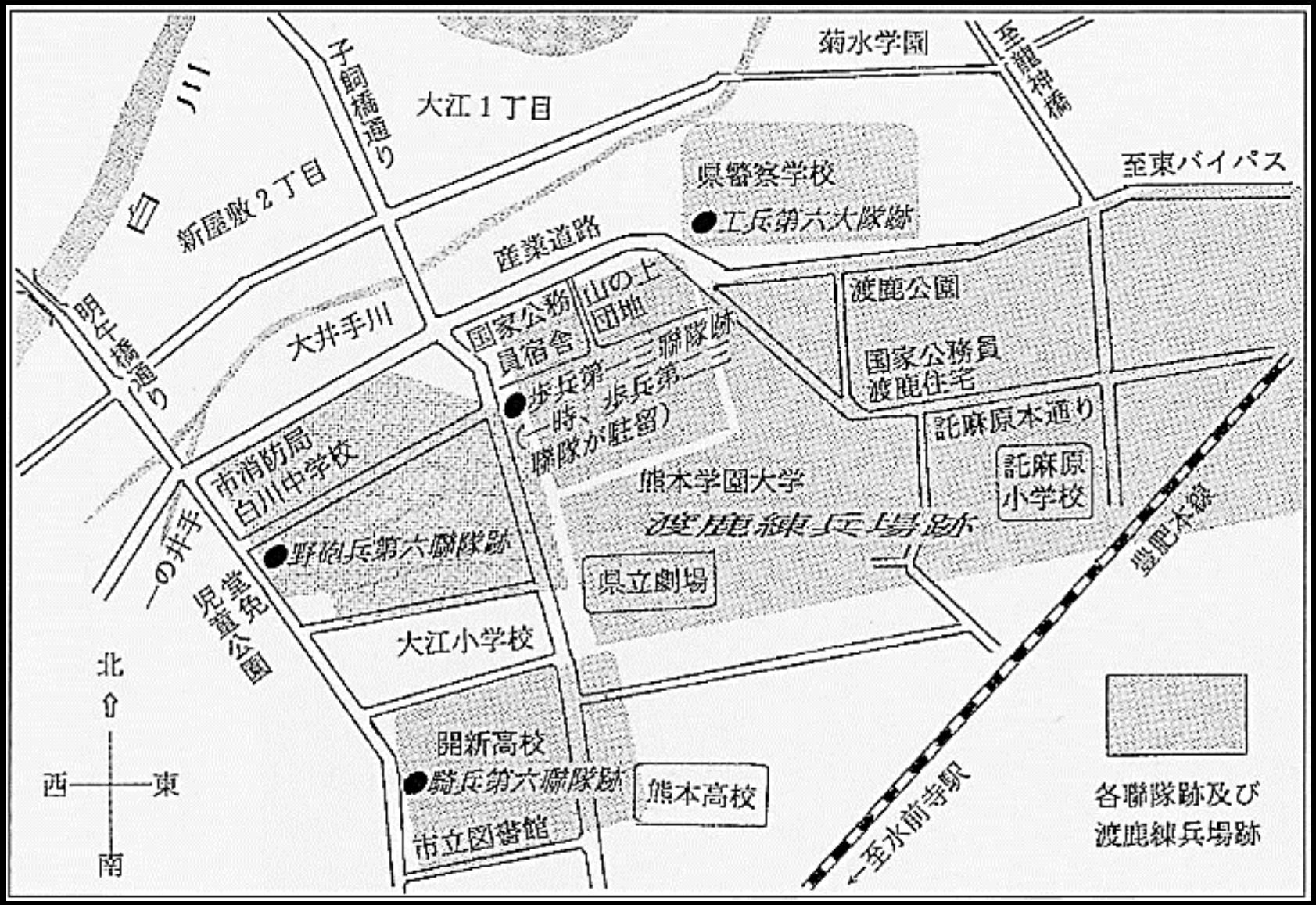
明治45年
公衆衛生意識
の高まりと
軍用地の土地
改良の状況

野砲兵第六連
隊の下水溝工
事設計平面図

凡例には
暗渠・開渠・
土管の記号も

野砲兵第六連隊の下水溝工事設計平面図
【JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C02031493100】防衛省防衛研究所 蔵

事例❺城内の改変と軍用地移転・拡大など



新熊本市史編纂委員会2003『新熊本市史 通史編集 第7巻 近代Ⅲ』熊本市
（P53：現在の地図に「最近実測熊本市街地図」を当てはめたもの）

兵器支廠（旧飯田組所蔵、画像提供：伊藤重剛氏）

絵葉書「平坦道路磐根橋及新堀橋」（左）
絵葉書「谷村計介銅像」（右）（いずれも講師蔵）

151年前
明治6年
熊本鎮台

147年前
明治10年
西南戦争

135年前
明治22年
熊本市発足
金峰山地震

125年前
明治32年
桜橋・城内新道

122年前
明治35年
明治天皇の行幸
行幸坂・行幸橋

113年前
明治44年
軽便鉄道

108年前
大正５年
配水池計画

101年前
大正12年
平坦道路・市電

98年前
大正15年
銅像の設置
市長（準貸付）

69年前
昭和30年
特別史跡

62年前
昭和37年
都市公園

8年前
平成28年
熊本地震

「100年の計」で城と都市計画を考える

過去

将来像

❶公文書から何がわかるか

近代（1868-1945）

現代（1945-）

1871　1877　1889　1899　1902　1911　1916　1923　1926　1955　1962　2016　現在

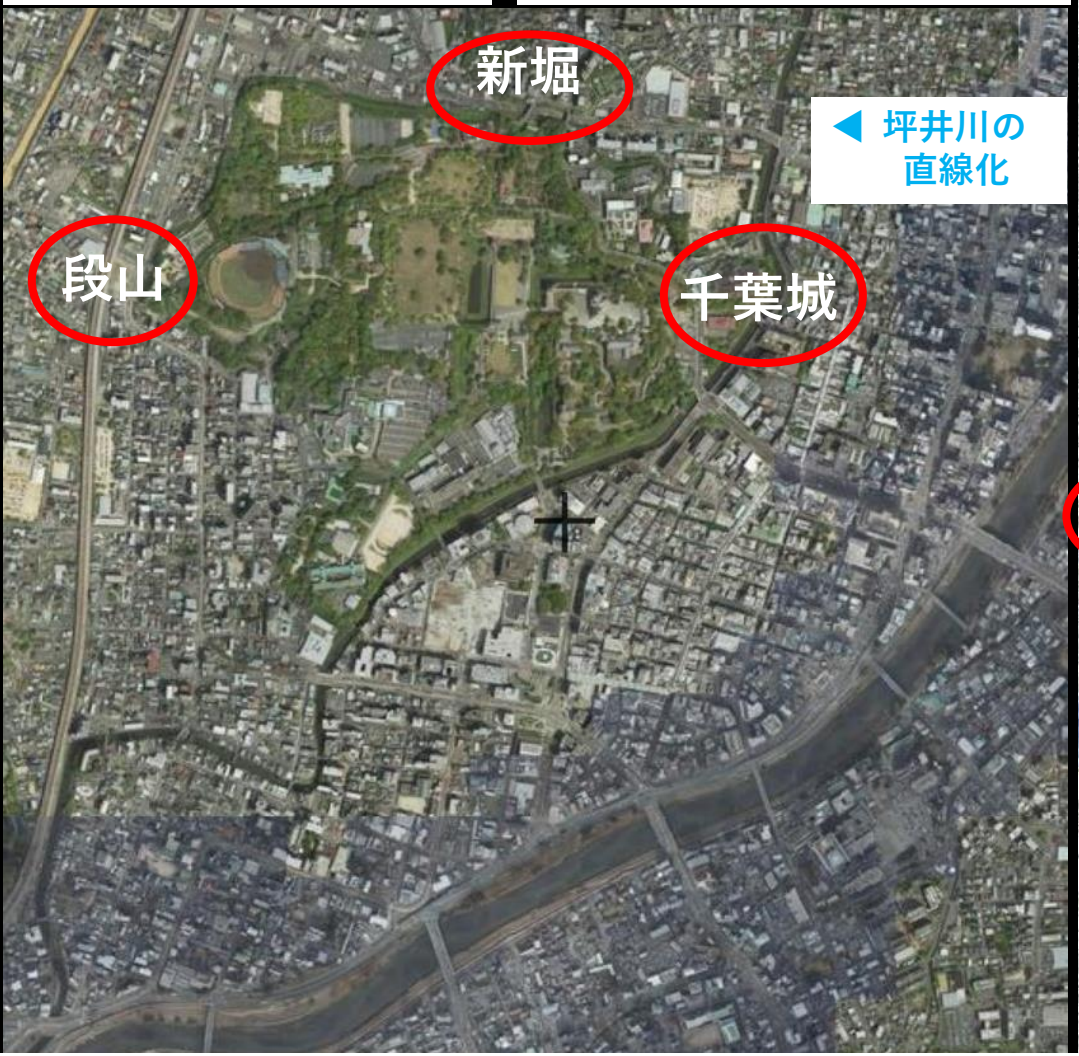
❶公文書から何がわかるか

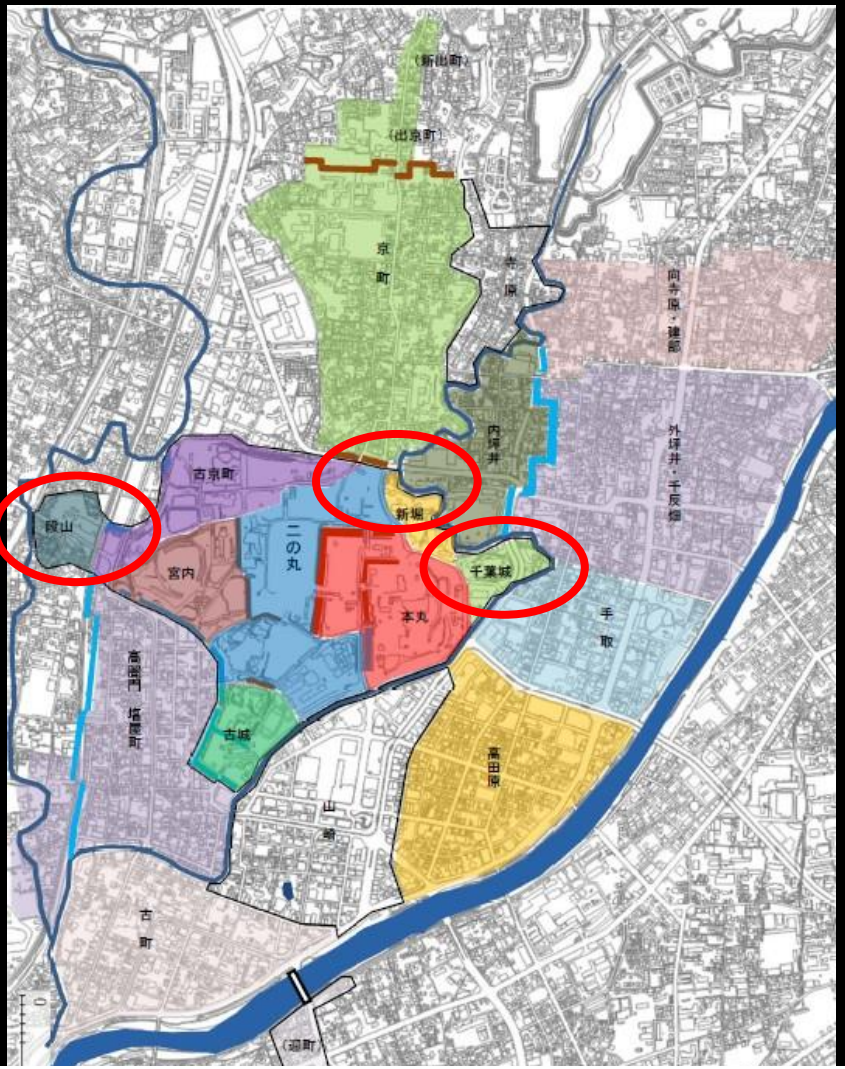
空中写真（2016年）国土地理院ウェブサイト（下記）を加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/#14/32.801589/130.715075/&ls=nendophoto2016&disp=1&lcd=nendophoto2016&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1

❶公文書から何がわかるか

鉄道敷設ほか
（段山の掘切・消滅）

千葉城
（坪井川改修・地形改変）



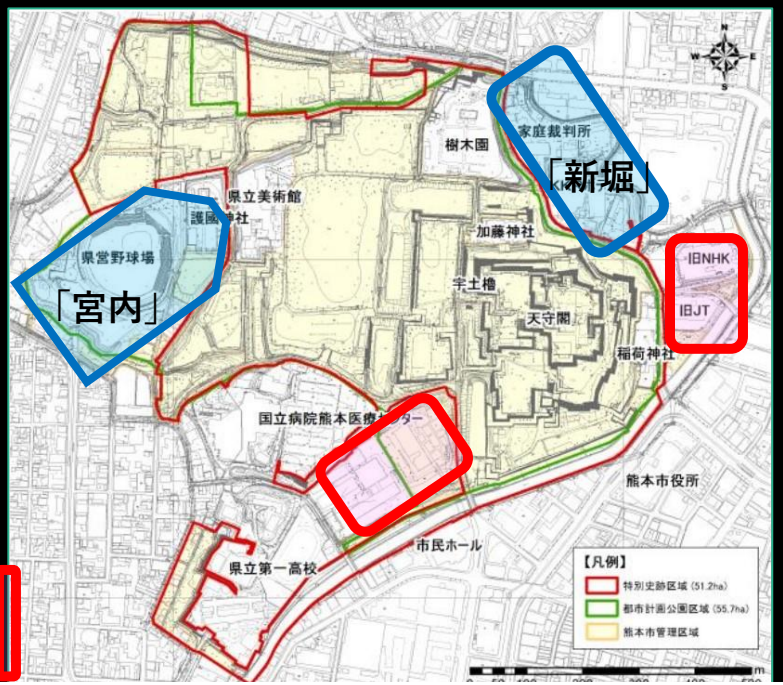


国土地理院ウェブサイト（下記）を加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/#16/32.805153/130.702447/&ls=nendophoto2016&disp=1&lcd=nendophoto2016&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1

熊本市熊本城調査研究センター2019『特別史跡熊本城跡総括報告書　歴史資料編』（史料・解説）（絵図・地図・写真）より加工して作成

❷公文書＝１次資料の重要性

熊本市熊本城調査研究センター2019
『特別史跡熊本城跡総括報告書　歴史資料編』
（史料・解説）（絵図・地図・写真）より抜粋



熊本市「熊本城復旧基本計画」
【平成30年3月時点の特別史跡範囲】に一部加筆。その後、追加指定等あり。

【誤解】※城内所在の土地・建物の経緯
- 城跡全域が特別史跡＆公園？
- 江戸期から城内にあった？
- 旧軍建物は戦災で焼失した？

例：複数の神社、病院、学校、ほか

【公文書で確認】
- 追加指定で範囲拡大
- 近現代に城内へ移転
- 焼失は免れ戦後解体
- 戦災復興都市計画の影響

❸公文書を検索してみよう

このあと、インターネットを使った「公文書」の検索方法をご説明します。

「興味を持った」「自分でも調べてみたい」と
思われた方は、ぜひ検索してみてください！

「いつでも、だれでも、どこでも、自由に、無料で」

例として、本日ご紹介した
「天守台への配水池計画」
（大正５年）の公文書を
検索してみます

熊本市長「借地願」・「配水池附近平面図」
「熊本城内箱馬場　天主臺跡」【1916・9・27】
（防衛省防衛研究所）

「ご清聴、ありがとうございました」

【参考文献】　熊本市都市政策研究所　ホームページ

検索

- 美濃口紀子2021
  「近代の公文書にみる熊本城跡の土地管理と城下の近代化」『熊本都市政策 vol.8』　※熊本城（戦前編）
- 美濃口紀子2022
  「熊本城跡における旧軍用地の転用と緑地及び公園化の動向」『熊本都市政策 vol.9 』　※熊本城（戦後編）
- 美濃口紀子2024「軍用地としての熊本城と都市の近代化」
  ＊髙田徹 編著『城郭がたどった近代―軍営・官公庁・公園・観光地への転換』戎光祥近代史論集 4

歴史文書資料室にもあります！